

栃木県農業大学校 令和6年度学校評価 計画シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	主担当	
				学部・塾	内容					
2 教育内容の充実	<p>(現状)</p> <p>○R5の授業評価アンケートで、内容が理解できている。概ね理解できているの回答が92.6%（前年度75.4%）、とちぎ農業未来塾講義の満足度は100%（前年度84.8%）であった。</p> <p>○農業技術検定3級合格率は76.9%（R4まで5か年平均77.1%）、2級合格率は7.1%（R4年度まで5か年平均19.6%）であった。</p> <p>○非農家や農業高校卒以外の学生が増えており、よりきめ細やかな講義・実習が求められ、対応に苦慮している。</p> <p>○ICTやドローン等を活用した新技術、GAPの取組が現場で拡大しつつある。</p> <p>R5年度のスマート農業に接した学生の割合は100%（前年度100%）。</p> <p>○高機能ハウス、ドリーム牛舎など最新型施設の整備が進む一方、施設、設備、備品の多くが老朽化しており、更新や修繕が進んでいない。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に対応し、R2年度にYouTube配信による授業を行ったが、同時双方向型など教育効果を向上させるためのオンライン授業の拡充が求められている。</p> <p>○R3年度創設の「いちご学科」について、カリキュラムを着実に実施しつつ、問題点等の検証を並行して行っていく必要がある。</p>	<p>分かりやすい授業・講義（アンケート結果）</p> <p>・農業生産学部 大体分かる 80%</p> <p>・未来塾 満足度 80%</p>	(1)教育スキルの向上	<p>○職員（教員）研修会の開催等</p> <p>・新任職員への授業展開のポイント及び学生の特徴的な傾向説明</p> <p>・Google for Educationの活用</p> <p>・新任職員授業見学の実施</p> <p>・スクールカウンセラーによる研修の開催</p> <p>・県総合教育センター主催の初任者研修への参加</p> <p>・県総合教育センター職員講話の実施</p>				教務部会		
					<p>○指導者研修会への参加</p> <p>・農業教育機関指導者向け研修への参加</p>			教務部会		
					<p>○授業評価の実施</p> <p>・学生向けアンケートの実施</p> <p>・職員（教員）向け授業改善方法の提案</p>			教務部会		
					<p>○学部と研修担当間の栽培体系の統一</p>			教務部		
			(2)生産技術、経営能力の向上	<p>生産学部</p> <p>経営学部</p> <p>未来塾</p>		<p>○基本技術の徹底指導</p> <p>○実践教育の実施</p> <p>・非農業高校卒かつ農作業未経験者への重点対応</p> <p>○農業技術検定に係る講義の充実</p>				教務部会
						<p>○先進技術の導入</p> <p>○GAPに係る教育の充実</p> <p>・グローバルGAPの果樹（日本なし）での継続認証取得</p> <p>・校内農場点検実習の実施</p>			GAP・HACCP 担当	
						<p>○連携協定等による教育研修の充実</p> <p>・全農や農機メーカーと連携したスマート農業機器の利用実習の実施</p>			教務部会	

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	主担当
				学部・塾	内容				
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●卒業後に円滑な就農ができるよう、基本知識・技術の習得はもちろん、先進技術の習得、資格取得等が必要である。 ●農業技術検定の講座は後期からであるが、前期の各専攻、学科の講義内での対策も必要である。 ●教職員の専門性や指導力の向上が必要である。 ●水田等への土地利用型作物の拡大、みどりの食料システム戦略等の施策に対応した実習が必要である。 ●ICTやロボット技術、ドローン活用等、スマート農業を取り入れた実習が求められている。 ●施設、設備、備品の更新や修繕を着実に実施するため、計画的かつ効果的な予算の確保が必要である。 ●オンライン授業について、様々な場面での活用を念頭に、同時双方向型授業に向けた問題点の検証、模擬授業の実施等、着実な環境整備が必要である。 ●「いちご学科」について、引き続きカリキュラム構成及び内容に関する検証や改善、農業振興事務所や受入先農家等との円滑な連携に取り組む必要がある ●とちぎ農業未来塾では、基本技術に加え、新技術に対応した施設整備及び指導力の強化が必要である。 	<p>農業技術検定合格 率 ・農業生産学部 3級 100% 2級 33%以上</p> <p>スマート農業に 接する学生の割合 100%</p> <p>デジタル教育を 利用する学生の 割合 100%</p>	(3)主権者教育の充実	生産学部	○ICT技術・新品種等の導入 ・ICT技術や県オリジナル品種等の新品種を活用した栽培実習の実施				企画情報部会	
				○土地利用型園芸技術の習得 ・たまねぎ、ねぎの機械化一貫体系利用実習の実施			教務部会		
				○経営管理能力の習得 ・校外学習や経営特別講座による先進事例調査・講義の実施			教務部会		
		(4)時代に応じた社会人研修の充実	未来塾	○学生寮生活を通しての教育 ・共同生活を通じた生活習慣・社会生活マナーの養成					学生部会
				○販売学習機会の充実 ・各種イベントや校外の一般店舗における販売促進活動の実施				企画情報部会	
				○社会生活講座・経営特別講座の充実				教務部会	
		(5)授業・研修のオンライン、デジタル化	生産学部 経営学部 研修科(ビジネススクール)	○PC等を活用したペーパーレス講義の実施					教務部会
				○オンラインを活用した講義による授業運営の効率化 ・とちぎ農業ビジネススクールの開催				水田農業担当 企画情報部会	
		(6)校内環境の整備・リスク管理の徹底	生産学部 経営学部 未来塾	○学校施設・設備の維持管理 ・施設・設備の破損状況等の把握と計画的・効率的な修繕・改修					学生部会
				○施設・教育現場でのリスク対応点検の継続実施 ・ヒヤリハット事例の情報収集と対策の実施 ・ヘルメット着用等の安全作業行動の徹底					
				○環境美化の励行 ・環境美化通信の定期発行による意識啓発 ・分担区域の定期的な環境整備の実施					
				○個人情報の適正管理 ・記録媒体や資料の持ち出し厳禁等、情報漏洩防止対策の徹底				学生課	